

島田市の入隊予定者が感謝と決意を表明



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は3月3日（水）、島田市民総合施設プラザおおるいで行われた、同市主催の「令和2年度島田市入隊激励会」に参加した。

この入隊激励会は、この春一般曹候補生、自衛官候補生として入隊を予定している5人とその家族が参加し、島田市長、航空自衛隊静浜基地司令、静岡地本副本部長、自衛官募集相談員などを来賓に迎え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため検温、消毒及びマスク着用を徹底し粛々と行われた。

入隊予定者は来賓からの激励の言葉や岸信夫防衛大臣の激励メッセージを熱心に聞き、これから立派な自衛官になる決意を固めていた。

また、島田市長は「私も子供が社会に出るときにはすごく不安と心配な気持ちになりました」と母親の目線で言葉を掛け、我が子の旅立ちを迎えた家族に寄り添った。

最後に入隊予定者は「今まで支えてくれた方たちへの感謝を忘れず、自衛官になりたいと思った気持ちを大切に、国民の皆様が必要とされる自衛官になります」と決意を表明し、来賓や家族からの盛大な拍手で入隊激励会は幕を閉じた。

静岡地本は、入隊予定者や家族に寄り添い、不安なく入隊できるよう引き続きサポートしていく。



県内の学生等が掃海艇「とよしま」見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は3月18日（木）、御前崎港（御前崎市）に入港した掃海艇「とよしま」の特別公開を行った。

これは、横須賀で新造された曳船「Y-114」が配属先の佐世保に向かう途中に寄港したもので、同行している「とよしま」を学生等13人が見学した。

新型コロナウイルス感染症対策として検温と消毒を行い、まず前甲板で、海面に浮上した機雷を破壊するための20ミリ機関砲を見学した。

乗員が大きな機関砲を上下左右に自在に動かす様子を見て参加者は驚きの声を上げ、貴重な光景を写真に収めていた。

その後、後部に移動し、掃海作業で使用する装備や、タグボートである「Y-114」について説明を受けたほか、パネルを見ながら艇内の食堂や居室などについて話を聞いた。

最後に、同艇が所属する第43掃海隊司令の西尾実2等海佐が、自らの経歴や経験、海上自衛隊の任務・活動などを直接参加者たちに伝え、自衛隊の魅力をアピールした。

参加した学生は「海上自衛隊の艦艇を見るのは初めて。乗員から直接生活面などの話を聞くことができて、理解が深まった」と感想を話していた。

静岡地本は、今後も部隊と連携し、自衛隊の活動・自衛官という職業を県内の多くの学生等に知ってもらえるようあらゆる機会を捉えた広報活動を行っていく。

